

名前：

インターネットの発達によっ、て、本や雑誌の売り上げも下が、てきましたが、もう本や雑誌などが必要ではなくな、たと思われま、せん。確かにインターネットでも新聞や本などを読めることが出来ますし、誰かに貸したいときも実際に会わなくても貸せますが、印刷されている文字とコンピューターや携帯などで見る文字とはやはり違うと思、ています。例えば、何かの資料を調べたいときは、パソコンでも検索しますが、図書館にも必ず行きます。それで、もし同じような資料を両所で見つけたら、本のほうを選びます。文字自体はあまり変わらないかもしれませんが、スクリーンより、紙に載、ている文字のほうが感受しやすいです。パソコンでも、携帯でも印刷品でも、どちらも同じではないかと思う人もいると考えますが、違うと思、ている人も絶対に少なくはないと思いますので、そういう印刷品はもういら、ないとは思われま、せん。しいて言えば、新聞の必要性は確かに下が、

てきたと思います。なぜなら、新聞は最近起こ、たことを報導して、社会に伝えるもので、人を思考させる資料とかとは違うので、文字から何かを感じられなくても、ただ何かがあ、たのかが分か、てればいいと思います。正直な話、もう何年間も新聞を読ん、ていません。しかし、自分に必要がないだけで皆にもそうだと推測してはいけないと思、ています。私にはインターネットより、本に載、ている文字を一つずつ感、してみたいのと同様、新聞を手にとり、て読みたいという人も必ずいますから、もう必要がないなんて断言できません。それから、パソコンや携帯などに保存したものは電源が必要ですが、本はその自体があれば、いつでもどこでも読めることが出来ます。インターネットは便利だとよく言いますが、この点から見たら不便なところもあると考えられます。ですので、利用率は確かに下が、りつつありますが、新聞や雑誌などの必要性はなくな、たと考えられま、せん。

1800字